



モグラ便り

2021年8月号



目次

- ◆ 巻頭言 山本政義・・・・・・・・・・01
- ◆ 連載企画 オランダ農業の今・・・・・・・・24
- ◆ 第45期定時株主総会報告・・・・・・・・04
- ◆ 品質管理部コラム・・・・・・・・・・30
- ◆ 取締役退任の挨拶・・・・・・・・・・05
- ◆ 九州・四国生産者大会案内・・・・・・・・31
- ◆ 贈る言葉・・・・・・・・・・・・・10
- ◆ 大島 北海道赴任挨拶・・・・・・・・・・32
- ◆ 視察報告・・・・・・・・・・・・・13
- ◆ 編集後記・・・・・・・・・・・・・32
- ◆ NPO 法人有機農業参入促進協議会（有参協）役員人事・セミナー案内・・20

創業の理念を継承する

代表取締役会長 山本 政義

先般、第45期定時株主総会は実参加1名、オンライン参加3名、委任状・書面議決権含め、総議決権数の73%の出席をもって開催され、全ての議案を承認・可決いただきました。誠にありがとうございました。

今総会では鶴田志郎元会長、佐伯昌彦会長、本橋克晴取締役の3名が取締役を退任いたしました。

鶴田元会長は創業者として「有機農業を農業の主流に」という思いで全国の生産地を回り、今あるマルタの礎を築いてこられました。私がマルタという組織に魅かれ、その一員となったのもそんな鶴田元会長との出会いからでした。また、佐伯会長はマルタが財政的にひっ迫していた時期からの立て直しに尽力し、不良債権や債務超過といった諸問題に取り組み、健全経営への



道筋をつけていただきました。私はマルタの集まりがあるたびに佐伯会長の人柄や指導力、発信力に魅せられていた一人でした。

偉大な先達の方々が取締役を退任することは寂しい限りですが、今後も相談役という立場でマルタの経営に関わっていただくことになっています。これからマルタのあるべき姿に向けて助言いただければ幸いです。

また東海マルタの本橋社長も長年にわたり取締役としてマルタの運営に携わっていただき有り難うございました。今後ともマルタの基幹資材でありますモグラ堆肥の供給をよろしくお願いいたします。

佐伯会長の退任に伴い、株主総会後の取締役会において私、山本が代表取

締役会長にご推挙いただき引き受けることとなりました。ご存じの通りマルタも2年前から監査等委員会設置会社となり、日常業務を取り仕切る業務執行部門と、企業統治や進むべき方向性の議論を進める取締役会という体制が整ってきました。

そんな中で生産者である私が組織の代表となる意味合いは、全国のプロducersの思いをこのマルタを通じて消費者の方々に伝えていくことが出来るからだと考えています。もとより浅学非才ではありますがありますが、マルタに育てていただいた御恩に報いる覚悟でまい進していく所存です。

前年度は新型コロナウイルス禍の影響もあり、冬季全国生産者大会の開催が中止となってしまいました。例年で

あれば大会でお会いすることで全国各地の農業情勢や取り組みなどの情報交換が出来ていたのですが、開催が叶わない中それに代わるものとして45周年記念誌であるモグラ便り特別号を刊行し5月に発送させていただきました。

前期の冬季大会が開催できなくなったことで、多くの人が知恵を出し合いそれに代わる何か が今回は記念誌であったわけです。大会の開催は無理でも仲間とともに出来ることがあるかもしれない、こんな方法はどうか、といった柔軟な思考をもって物事に対処していけば1人の発想では気付かなかったことも、多くの知恵を出し合うことにより新たな発想が生まれてくるものだと思います。そうして出来上がったのが今回の45周年記念誌でした。

記念誌にはマルタと関わってきた生産者の歴史やこれからのマルタへの期待など、今まで知らなかった話なども多岐にわたり収納されており、自画自賛ではありますがとても読み応えのある内容になっており、また記念誌の表紙や裏表紙には全国各地に広がるマルタ生産者の写真を配し、いかにも生産者とのグループなのだというインパクトを与えてくれています。

年末から年度末のお忙しい中に執筆のご協力をいただいた多くの皆様、取りまとめや編集を担当して素晴らしい冊子に仕上げてくれた冊子委員会の皆さん、本当にありがとうございます。マルタもおかげさまで持ちまして、昨年度45期には92億円余りの売り上

げ規模になりました。これもひとえに産地の皆様のご協力とお取引先各位のご支援の賜物と感謝申し上げます。

売り上げ規模が大きくなると必然的に産地の拡大や販売チャネルの多角化、それに伴う人員の補充が必要になってきます。それはもちろん組織の成長の上で重要な選択ですが、往々にして規模拡大の過程では創業の理念が希薄になり「何のために」「誰のために」という存在意義を見失いがちになります。

マルタの業態上、商品（農産物）を仕入れてお客様にお届けすることが仕事となりますが、単に物を動かすだけではなく、産地の思いや生産現場の的確な状況把握など、産地側とのコミュニケーションを密にしていくこ

とがお取引先様にも産地の思いを伝えられると思います。

第46期もすでに動き始めています。生産者の方々やお取引先の皆様にも今後ともマルタが必要とされる組織であり続けるためにも、創業の理念を共有し更なる飛躍を目指して努力してまいります。記念誌の鶴田社長の言葉を借りれば、「単に物を右から左に動かすだけの卸売業者になっていないかを常に点検し、戒めていく必要があります。産地の成長に貢献できる仕組みを提案し、挑戦しながら共に成長していける組織を目指します」。まさにこの一言だと思います。

